

— 聖書 —

聖書正典

H. ウィック

聖書は教会の書物でしょうか？ または神の書物でしょうか？ 初期教会が「この本は神の御言葉だった」と宣言したので、私たちは聖書を神の言葉として受け入れるのでしょうか？ または、聖書自体の内容に、これは神の靈感によって書かれた言葉であると書いてあるので、私たちは聖書を受け入れるのでしょうか？ これらの疑問は重要です。なぜならば、もし、聖書が教会の産物であるならば、教会が実際に教義の源であり、聖壇に対して権利を持ち、思うように教義を変えられることとなります。それでは、私たちは、当てにならない人間の教え、理想、想像の上に、あなたの永遠の希望を置くこととなります。それですから、私たちは「**誰が聖書の正典を決定するのですか？**」という問題に関心を持つべきです。

聖書正典

「正典」という言葉の意味は何でしょうか？ ギリシア語の「カノン」の元の意味は「まっすぐな、計量の棒、ものさし」という意味でした。それは後に教会の「教令」を示すために使われました。さらに後に、それは私たちが「聖書」と呼ぶ神の靈感によって書かれた書物へと適用されます。この「正典」という意味では、それは紀元後 363 年のラオディケアの評議会において使われました。「正典的ではない書物は教会では読むことはできません。旧約と新約聖書の聖書正典だけを読むことができます。」と、同会議で布告されたときから、その「正典」という意味で、教会はそのカノンという言葉を使います。

正典と呼ばれる 66 巻の聖書よりも、さらに多くの書簡を含んでいる聖書、またはそれらを「正典」と呼んでいる教会に気がつくならば、疑問に思うべきです。「誰が聖書の正典を決定しているのですか？そして、どれが正典なのですか？」と。

旧約聖書

旧約聖書のどの書簡が、本物として受け入れられるのでしょうか。聖書に含まれることがなかった、多くの宗教的な古代の書物があったということを聖書から私たちは知っています。例えば、第一歴代誌 29 章 29, 30 節に「**ダビデ王の業績は、最初から最後まで、予見者サムエルの言行録、預言者ナタンの言行録、先見者ガドの言行録にまさしく記されている。それには、彼のすべての統治、彼の力、また、彼およびイスラエル、それに各地の諸王国が過ごした時代について記されている。**」第一歴代誌は聖書の正典の一部ですが、ここに書かれているこれらの書物は、本物として言及されているわけではありません。（第二歴代誌 9 章 29 節、12 章 15 節、そして 13 章 22 節も見てください。）

誰が、どの書物が旧約聖書に属するかということを決めたのでしょうか？ ヘブライ語、アラム語で書

かれた旧約聖書を、ギリシア語に翻訳したセプトゥアギンタ（ギリシア語70人訳）は、アレクサンドリア、エジプトに住んでいるユダヤ人たちによって翻訳され、約紀元前250年頃までに完成されましたが、私たちが持っている66巻の旧約聖書に、他にも幾つかの書物が含まれていました。しかしながら、紀元後90年にヤムニヤのユダヤ人評議会は、私たちの現在持っている66巻の旧約聖書だけを認めました。では、誰が正しいのでしょうか？ギリシア語訳のセプトゥアギンタでしょうか？またはヤムニヤのユダヤ人評議会でしょうか？そして、誰が旧約聖書の書物の数を決定する権限を持っているのでしょうか？

旧約聖書の内容の決定において、私たちは紀元前250年頃にエジプトに住んでいた旧約聖書の信者たちに頼りません。紀元後90年にヤムニヤで集まったユダヤ人指導者たちにも頼りません。むしろ、私たちのためにこの決定をなさった**キリスト**に頼ります。

よみがえられた日の夕方、キリストはある部屋で、ご自分がよみがえられた主であったということを確認させるために弟子たちに現れました。彼らにご自分の両手と両足を見せ、彼らの前で食事をしました。そしてイエスはそれ以上のことをしました。イエスは彼らに聖書を示し、次のように言いました。

「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」（ルカ24章44節）ルカの福音書には続けて次のように書かれています。「そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、」

これらの言葉の中で、主御自身は旧約聖書の長さ、範囲を決めました。「モーセの律法、預言者と詩編」それは私たちの旧約聖書の中に現在あるものと同じ書物、同じ66巻の聖書です。更に、この66巻の聖書以外に、新約聖書の中で引用された他の書物はありません。それらは決定的な証拠です。誰もわたしたちの主よりも、神の言葉である聖書を知ることができる人はいません。エズラ（紀元前458か397年バビロニア捕囚からエルサレムにユダヤ人たちを導き上った祭司であり学者。彼はユダヤ人の異教化を恐れ、聖書を正しく紹介するために努力した）と彼と共に働いた人たちが、これらの書物を最初に集めたことは確認されています。しかしながら、主なる神が言われたことが決定的な判断なのです。

新約聖書

私たちの主イエスは、私たちが新約聖書の正典性を判定する原則を定めました。彼は御自身の弟子たちに次のように語った時に、聖書の著者として、より高度な資格を私たちに示されました。「**しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」**（ヨハネ14章26節）イエスは御自身の名において弟子たちが話したことと、御自身の名において書いたことは、神の御言葉であることを私たちに確信させています。

次の御言葉も、新約聖書の正典性の原則を述べています。ダマスコへの道で、私たちの主イエスが弟

子として招聘したパウロは、ガラテヤ人たちへ書きました。『兄弟たちよ。私はあなたがたに知らせましょう。私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。私はそれを人間からは受けなかったし、また教えられもしませんでした。ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。』（ガラテヤ1章11,12節）そして、エペソ2章19,20節の中でも彼は加えています。「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。」 「預言者」という言葉は、旧約聖書のことを指しています。そして「使徒」という言葉は新約聖書を指しています。この御言葉は、この新約聖書が正典であるという証です。

(参照聖句—(イエスの証言)ヨハネ10章35節,ルカ24章44節(使徒たちの証言)第二テモテ3章16節,第二ペテロ1章19-21節)

靈感によって書かれたことに気がつくこと

パウロは第二テサロニケ2章13-15節の中で、彼自身について次のように語っています。「しかし、あなたがたのことは、私たちはいつでも神に感謝しなければなりません。主に愛されている兄弟たち。神は、御霊による聖めと、真理による信仰によって、あなたがたを、初めから救いにお選びになったからです。ですから神は、私たちの福音によってあなたがたを召し、私たちの主イエス・キリストの栄光を得させてくださったのです。そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、または手紙によって教えられた言い伝えを守りなさい。』そしてパウロのテサロニケ人たちへの最初の手紙の中で、彼は既に明言しています。『こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。』（第二テサロニケ2章13節）パウロは彼の書物が靈感を受けたものであることを教え、そして彼の書物の受取人たちはそれらを認めました。

(参照聖句—ヨハネ14章16-17節,ヨハネ14章26節,ヨハネ16章5-7節,ヨハネ16章12-15節,第一コリント2章12-13節,第二ペテロ1章12-21節,第二ペテロ3章21節,エペソ2章20節,第一テサロニケ2章13節,コロサイ4章16節,第一テサロニケ5章27節)

新約聖書の聖典の収集

新約聖書の書簡の収集と配布は、それらが書かれた後、すぐ始まりました。たとえば、パウロはコロサイ4章16節で次のように述べています。「この手紙があなたがたのところで読まれたなら、ラオデキヤ人の教会でも読まれるようにしてください。あなたがたのほうも、ラオデキヤから回ってくる手紙を読んでください。」言い換えれば、これらの書物を受け取った会衆たちと各個人は、他の会衆達、各個人とそれらの書物を分け合いました。

第二ペテロ3章15、16節で、ペテロはパウロの書いた書簡の収集について話しています。「また、私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。それは、私たちの愛する兄弟パウロも、その与えられた

知恵に従って、あなたがたに書き送ったとおりです。その中で、ほかのすべての手紙でもそうなのですが、このことについて語っています。その手紙の中には理解しにくいところもあります。無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の個所のばあいもそうするのですが、それらの手紙を曲解し、自分自身に滅びを招いています。」

証拠ははっきりとしています。神は私たちの旧約と新約聖書を構成する使徒たちと預言者たちの靈感を受けた書物だけを収集され、保存されるようにされました。神の靈感はそれらのすべてが本物であることを証明しました。(参照聖句-Ⅱペテロ 3:15,Ⅰテサロニケ 5:19-22,Ⅱテサロニケ 2:2,黙示録 2:2,)使徒たちが靈感を受けた新約聖書の収集と保存を管理したことは明らかです。この目的を果たすために、イエスは使徒たちに聖霊を豊かに与えられました。--聖書釈義学 P26)

聖書外典

様々な教会会議と、教会教父たちが、神の靈感を受けていなかった幾つかの書物を、神の靈感を受けたものとして受け入れた時がありました。私たちはこれらの書物を「聖書外典」と呼びます。旧約聖書の聖書外典と新約聖書の聖書外典があります。次第に、それらの本当の特質がわかってきた時、教会はこれらの書物を聖書から除外しました。聖書をラテン語に翻訳したジェロームは、どんな聖書外典も受け入れませんでした。そして、6世紀頃、聖書の中の書物は今日、私たちが持っているものと全く同じ物になりました。

第二テサロニケ 2章 1 – 3節の中で、パウロは偽の文書に対して、彼の手紙の読者たちに警告しました。「さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。」パウロの書物の多くで、パウロは彼の直筆のサインによって、その書簡がパウロ本人によるものであることを証明しました。このようにして、パウロは読者たちが、偽文書と本物を見分けることができるようにしました。聖書外典は旧約聖書の言葉、あるいは使徒たちによって書かれたと言葉との「一致しない教義」を含んでいました。本物の聖書と偽文書とを見分ける作業は、それを読むそれぞれのクリスチャンの直面する仕事でした。

パウロのこれらの言葉にもかかわらず、ローマ・カトリック教会は1546年、マルティン・ルターの亡くなったすぐ後、トレントでの会議において聖典の一部としてトビト書、ユディト書、知恵の書、シラ書、集会の書、バルク書、そして2つのマカバイ記の聖書外典を正典として認めました。なぜでしょう?なぜならば、これらの書物の中に、ローマ・カトリック教会は煉獄と聖徒礼拝という間違った教義を支える文言、文章を見出したからです。もちろん、ルーテル派のクリスチャンたちはこれらの宣言を拒否しました。

(多くの人に受け入れられ、正典であることが疑われたことがない書簡を「ホモレゴメナ」、多くの人々に受け入れられなかった書簡を「ツウデピガラファ」(偽書、偽典)ある人々(カトリック)によって正典に加えられた書簡を「アポクリファ」、ある人々が正典から除外したいと願った書簡は「アンティエゴメナ」と呼んでいます。)

真理の証し

正典の勉強で目をひくことは、初期教会の教父たちの書物です。それらは非常に多く存在しますが、ここではローマのクレメントとテルトリアンという二人の教会教父の書物だけに言及します。

ローマのクレメントの生涯は、使徒たちの生涯と重なるものがあります。2つの手紙には彼の名があり、1つは偽造に違いなく、もう一つは彼直々の著書、つまり本物です。これらの手紙の両方は紀元後97年頃に書かれたか、使徒ヨハネが福音書と黙示録を書いたのと同じ時代に書かれました。クレメントがコリントの会衆へ書いた2つの書簡の中で、クレメントは新約聖書の27のうちの18の書物から引用しています。事実、これら二つの書物のなかで、クレメントは新約聖書から89の御言葉を引用しています。

テルトリアンは彼の書物の中で1800回以上も新約聖書を参照しています。彼の生きている間(紀元後160年から220年)、新約聖書の原本がまだ存在していたようです。彼の著書「異端者たちへの抗弁」の中で、彼は、どれが本物の正典で、または偽典であるかを自分自身で調べたいと願ったクリスチャンたちへ次のように宛てています。「もし、あなたの救いに関して、あなたの好奇心を有益に用いたならば、まだ、使徒たちの真に権威のある書物(聖書の原本)が存在している。彼らの本物の使徒書が読まれ、彼らの声が反響し、それぞれの顔の表情が伝わる使徒的教会を訪ねなさい。アカイアはあなたの近くですか?あなたにはコリントがあります。もし、あなたがマケドニアから遠くなければ、ピリピとテサロニケがあります。もし、あなたがアジアに行けるのならば、エペソがあります。もしあなたがイタリアの近くにいるのならば、ローマがあります。」

テルトリアンのこの言葉は私たちに、パウロが第一コリント15章3-8節で語った提案を思い出させます。「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現われてくださいました。」

パウロの時代において、コリント人たちはよみがえったキリストを見た人々に会い、面談することができました。テルトリアンの時代には、新約聖書の原本の原稿を良く調べることもできたようです。今日、日本人である私たちは、どちらもすることができません。しかし、私たちは彼らの証しを持ってい

ます。そしてなによりも、私たちは聖書それ自身の証しを持っています。

このように、私たちが正典の歴史を研究する時に、確信を持つことができます。聖書の正典は人々によって、教会によってではなく、神によって決められたということに疑いがないとすることができます。私たちの聖書の中の66の書物は、聖霊なる神によって靈感を受けて書かれた書物です。聖書の正典性は、それらを書かせた真の著者である神ご自身が、その聖書の中で正典と偽典とを分ける原則を教え、その原則によって、これらの聖書が本物であることを証明しています。そうです、私たちの聖書は信頼でき、私たちはその約束を信じることができ、何も欠けている物はありません。